

ピーマンのアブラムシ類の防除体系

環境部

1 背景とねらい

ピーマン栽培の団地化が図られるにつれ、農薬による防除対応が不能のウィルス病が各地で多発し、問題となっていることから、本病を媒介するアブラムシ類を対象とした防除体系を組み立て、それによるピーマンのウィルス病防除についての実証試験を行った。

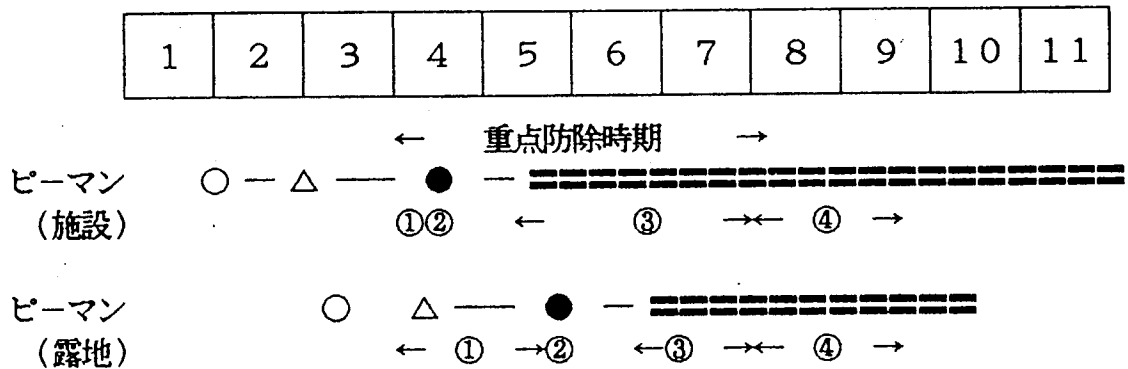
2 技術内容

1) ピーマンに寄生する主要なアブラムシ類は、モモアカアブラムシとワタアブラムシで、初発時期は前種が4月上旬、後種は5月下旬～6月上旬である。

2) 防除は土壌施用剤と茎葉散布剤とを併用するが、それらのおおよその残効期間を下表に示した。

農薬の種類		薬剤名	施用量(倍率)	残効期間(日)
土壌施用剤	カーバメート系	オンコル粒剤	0.5g/株	30
茎葉散布剤	有機燐系	エストックス乳剤	(1500倍)	15
		その他DDVP乳剤など		7
	カーバメート系	アリルメート乳剤	(1000倍)	15~20
	ピレスロイド系	アディオオン乳剤	(2000倍)	20~30

3) 体系防除の具体例は、下記のとおりである。



- : 播種    △: 移植    ●: 定植    ═: 収穫期間
- ①育苗期: 発生に応じてエストックス乳剤かアリルメート乳剤を散布
- ②定植期: オンコル粒剤を育苗ポットの表層に散粒後定植
- ③生育期前半: ウィルス病対策としての重点防除時期。発生に応じてアディオオン乳剤かアリルメート乳剤を散布
- ④生育期後半: アブラムシ類の吸汁害が主体。発生が目立つ場合に茎葉散布剤で防除

#### 4 指導上の留意事項

##### 1) 栽培関係

- (1) きゅうり栽培圃場の近くには、ピーマンを作付けしない。
- (2) アブラムシ類の越冬源となる、ハウス内等の雑草を除去する。

##### 2) 防除関係

- (1) 各薬剤の残効期間を考慮した防除計画を立てるが、同一系統薬剤の連用を避ける。
- (2) オンコル粒剤は薬害を生じさせやすいので、使用量を厳守する。

#### 5 参考文献・資料

- 1) 昭和63年度 新技術普及指導検討会資料 (岩手県園芸試験場) 農村振興課
- 2) 昭和63年度 環境部試験成績書 岩手県園芸試験場 (印刷中)

#### 6 試験成績

##### 試験方法

区No	土壌施用剤 (g/株)	茎葉散布剤 (希釈倍数)	備考
1	オンコル粒剤 (0.5)	アディオン乳剤 (2000)	年度: 63年 (露地) 品種: 土佐グリーンB 定植: 月日6月22日 区制: 1区10株2連制
2	オンコル粒剤 (0.5)	アリルメート乳剤 (1000)	
3	オンコル粒剤 (0.5)	エストックス乳剤 (1500)	
4	オンコル粒剤 (0.5)	DDVP乳剤 (1000)	
5	無施用	無散布	

オンコル粒剤を育苗ポットの土壌表面に散粒して定植。茎葉散布は7月27日に実施。

##### ピーマンアブラムシ類の体系防除効果 (63年、露地)

区No	調査月日								アブラムシの種類
	6/22	6/29	7/9	7/19	7/26	7/30	8/4	8/12	
1	0	1.0	15.3	1.3	0.5	0	0	0	ワタアブラムシ
2	0	0	2.5	0.8	6.5	0.3	4.0	4.5	
3	0	0	2.0	2.5	6.8	1.0	4.0	8.0	
4	0	0.8	5.3	0.5	0.8	0.3	2.8	4.0	
5	0	3.8	61.6	141.1	202.3	223.6	96.8	10.0	
1	0	1.5	2.3	14.3	15.8	0.3	0	0	モモアカアブラムシ
2	0	1.0	4.8	4.5	18.0	0.5	1.3	1.3	
3	0	0.3	5.5	9.0	32.3	3.5	4.3	3.3	
4	0	0	3.5	6.3	8.5	1.5	1.8	2.3	
5	0	2.1	15.1	56.3	133.0	186.1	89.0	21.5	

数値は先端部10ヶ所と下位10葉当りの合計無翅虫数

調査方法: 1区8株の下位葉5葉および先端部5ヶ所の寄生虫数を調査。